

第5回 住民がつくるおしゃれなまち研究会 議事概要

日 時：2018年3月20日（火）15:00～17:00

場 所：日本都市センター会館 スバル

出席者：【委員】卯月盛夫 座長（早稲田大学）、岡田智秀 委員（日本大学）、
福井恒明 委員（法政大学）、牧瀬稔 委員（関東学院大学）、
梶山浩 委員（戸田市）、石川義憲 委員（日本都市センター）

【戸田市】戸田市 PT

【事務局】川上担当課長、生出副主幹、長谷川副主幹（戸田市）

池田副室長、高野研究員、瀧澤研究員、千葉研究員（日本都市センター）

議事要旨

- ・アンケート調査の報告
- ・実証実験に関する議論

1 アンケート調査の報告

戸田市在住の20歳～49歳の男女3,000人を対象に、戸田市のイメージ、おしゃれに関する意識を調査するため、「ライフスタイルに関するアンケート調査」を2018年1月～2月に実施した。3月20日時点での回収件数は1,088件、回収率は36.2%である。

設問ごとの集計結果は「ライフスタイルに関する調査アンケート報告」を参照されたい。

○今後の分析に向けた検討事項・議論

- ・戸田市への居住継続について、「ぜひ住み続けたい」・「できれば住み続けたい」と回答した人と、「あまり住み続けたいと思わない」と回答した人のいずれも、その理由に「利便性」を挙げる人が多い。この結果は、平成22年度に戸田市と目白大学とで実施した人口移動実態調査の結果と同じである。
- ・日常の購買活動における利便性を評価する人がいる一方で、ブランド品等のおしゃれなものの購買活動における利便性は評価しない人がいるのではないか。
- ・仕事・学校帰りに寄ることが多い場所を「戸田公園駅」とする回答が多い。戸田公園駅は乗降者数が多く、日常の購買活動に便利な駅ビルやスーパーマーケット等の施設も充実している。
- ・戸田公園駅から戸田ポートコース（以下、「ポートコース」という）までのすべてをおしゃれにするのは難しいかもしれないが、拠点の整備を行うことでポートコースへ意識を引っ張っていくことはできるだろう。
- ・男性の29%が平日在宅時の過ごし方を「趣味」と回答しており、選択肢中2番目に回答が多い。年齢とクロス集計することで、趣味の内容が明らかになるのではないか。
- ・年齢が低く、かつ居住年数が長い人ほど戸田市に愛着があるといえる。
- ・子どもがいる家庭だけでなく、これから結婚・出産し、まちに住み続けることが期待される学生も政策のターゲットになる。

- ・高校生や大学生に対して社会参加の機会を提供している自治体は少ない。高校生や大学生のまちに対する興味が低いことが、選挙の投票率の低下にもつながっている。
- ・戸田市に「愛着がある」「住み続けたい」と回答した集団に参加の機会を提供することで、住民がどのようなまちをつくりたいと考えているのかが見えてくるのではないかな。
- ・戸田市の「おしゃれ」は、従来の「洗練」という概念とは異なる。
- ・住民のライフスタイルの中に潜在するおしゃれの感覚を引き出すプロセスが構築できれば、住民がつくるおしゃれなまちは実現するだろう。

2 実証実験に関する議論

戸田市から、7月15日（雨天の場合は、翌日に延期）に、これまでの研究会での議論やアンケート調査の結果をもとに、戸田市の代表的な水辺空間であるポートコースに隣接する高台広場で、住民主導のイベント（実証実験）を開催する提案があった。

①地域資源としての水辺空間の魅力、②水辺空間を拠点として活動する団体、市民及び行政の今後の関係・連携のあり方について検証する。

(1) イベント全般について

- ・会場と周辺的环境（水辺空間と緑地空間）との関わりを密接につなぐ工夫が必要である。船で水辺を伝って来場する動線づくりなどが考えられる。
- ・来場者が水辺とつながることだけでなく、来場者同士がつながることも重要である。
- ・来場者がどのような手段（口コミ、メディア、SNS等）でイベントの情報を入手したのかを調査したい。
- ・ボートレースの観戦により、競技への理解や、この場所に対する景観を通してのレスペクトが育まれるよう、イベントとボートレースとがジョイントする時間帯の設定があるといい。
- ・艇庫に協力を依頼し、市民がボート体験をできるとよい。
- ・ボート競技の関係者との利害関係の調整を行う必要がある。
- ・「ボートコースでなら、こんなことをやってみたい」、「ぜひ何か参加したい」という人たちの輪を広げられるような仕掛けがあるといい。

(2) 実験手法について

- ・自転車での来場を呼び掛けるなど、イベントのコンセプトになるようなことを仕掛けたほうがいい。
- ・戸田市らしいおしゃれな空間をつくっていくためのアイデアを、シール貼りアンケートで調査するのはどうか。

(3) 住民がつくるおしゃれなまちの仕組みづくりやその発展可能性について

- ・おしゃれなまちの担い手になる人たちがつながって、まちづくりの仕組みづくりや組織づくりになっていくといい。
- ・住民がおしゃれなまちをつくっていく仕組みが、恒常的に続いていくことを期待する。

3 今後の予定

第6回研究会は、5月下旬に開催予定である。田中委員に問題提起をしていただき、意見交換を行うほか、住民と行政の仲立ちを行う中間支援組織及び実証実験について議論する。

(文責：日本都市センター)